

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 5月 30日

事業所名: こどもサポート はるかぜ

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	○			室内だけに限定して おらず、積極的に地 域周辺を活用してい る	心地良い空間は、多様であるため活用できる資源を更 に掘り起こしていきたい
	2	職員の配置数は適切である	○			加配人員を配置し、 手厚い支援を目指し ている	より専門性を高められるよう、確かな支援を行えるよう 目標を定めている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	○			主フロアと畳間が 併設されており、情報 伝達よりも自然と行 動できる空間を整え たい	過ごしやすさは個々によって違うため安全性や療育性 を兼ねた空間作りを常に心がけている
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	○			日々の振り返りや習慣 目標を随時ミーティ ングを行っている	ミーティングの質向上には、個々のスキル向上が必須 であるため各研修等も同時に行っている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	○			評価表のみだけでな く、日々の保護者との コミュニケーションを 心がけている	十分な意思疎通ができるよう、些細なことで連携でき る体制を構築していきたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	○			HPでは、プライバ シーに配慮しつつ活 動の様子等写真も公 開しており、場の雰 囲気が伝わるよう工 夫を重ねている	認知してもらえるような様々な媒体を活用していきたい
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている			○		第三者による評価は得ていないものの、必要に応じて 対応を重ねていきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	○			職員のやりがい向上 のため、スキルアップ は必須と考えており 研修には力を入れて いる	福祉テーマにより研修も含めて、マネジメント・リーダ ーシップ等でもレベルアップをかを回している
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	○			丁寧なヒアリングを心 がけ、実態に沿った 計画書作りを目標と している	専門用語を用いなくとも伝わりやすい、双方に納得で きる計画書を常に心がけていきたい
適切な支 援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している			○	できる・できないの観 点だけでなく、優先順 位を意識しているが 現状はツールを活用 できていない	評議を重ねる際には、標準化が必須であるか個々の 支援員としてのスキルをすり合わせる必要がある
	11	活動プログラムの立案をチームで行ってい る	○			義務化になった5領 域をさらに突き詰め、 ご家族にとっての寄り 添い場所を提供でき よう研鑽を重ねてい る	目標とし移行支援も行えるよう支援員・事業所のレベ ルアップも回していきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫し ている	○			児童の特性によって プログラムが違って くるため、細かな工夫 で集団性を保っている よう活動プログラムを 考案している	プログラムの見える化を通して、より充実した時間がで きるよう研鑽を重ねていきたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	○			曜日で担当を振り分 けているも、チームで 行う全体性を重要視 している	ねらい、支援目標を言語化し誰にとっても心地よい活 動を目指している
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	○			目的、ねらいを可能 な限り言語化してい る	個別療育から集団療育はグラデーションが多岐になる ため、十分な検証を行っていきたい
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	○			療育を充実したもの にできるよう、常に ミーティングを行っ ている	長期休暇では、ミーティングが少なくなるため支援員同 士の十分な連携が取れるよう日々の積み重ねを心が けている

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			活動の良し悪しを満足感だけにしないよう、振り返り手法を用いて意見を共有している	些細なことでも共有し、紐解けるスキルを身に付けていきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			個別に必ず記録を取り、十分なステップアップになれるよう根拠資料として活用している	支援員により捉え方、表現の違い等の制度を高めていきたい
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			モニタリング時には、資料を提供し日々の様子が分かるようにしている	事務的な流れにならず、きめ細かい共有をしていきたい
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			基本活動を中心に、より充実した活動を展開できるよう努めている	今後は特化した活動も展開していきたい
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			会議には相応のスキルを持ち合わせた人を割り当てている	態様な体制でふさわしい者と併せて参画を図ってきたい
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			連絡調整を密に行っている	すくなくならず伝達ミスがあるため、適切な対応を図り情報共有を更に強化していきたい
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○	ご利用無し	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			相談支援専門員とも連携を図り必要に応じて情報共有を図っている	しっかりと引き継ぎができるよう、最善の情報共有を心がけていきたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			卒業に際し、学校等の担当者と細かな情報交換を重ねている	移行会議も積極的に参加している
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			特に事業所間のやり取りは重要視し互いの支援を共有している	発達センターとの専門機関とも今後は連携を図ってきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			小学生を中心とした自治会放課後倶楽部へ定期的に交流を図っている	今後は地域の幅を広げて交流を深めていきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			町が率先して行っており、開催時には積極的に参加をしている	次年度からは正式に子ども部会が発足し、十分な情報交換及び連携を図ってきたい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			保護者との連携を重要視している	多様な家庭環境において、共通理解度は多岐に渡るため専門性がより求められており、現状に怠らずお子さまのサポートに日々寄り添ってきたい
保護者への説明	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○		申送りの際やTELなどでの相談が主なため、プログラムとして実施を図りより家族支援に繋げていきたい
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			規定や制度を分かりやすく伝達できるよう、文言の背景をスタッフ研修に取り入れている	丁寧な説明と併せて今後は理解が容易になる説明資料も作成していきたい
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			内容説明に分かりやすい表現を心がけている	事業所の軸や児童そのご家族の意向をしっかりと反映できる計画書を作成できるよう常にスキルアップを図ってきたい
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		保護者同士の連携も図れるよう、多様な形でイベントを企画していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			すぐにフィードバックができる連携を常に心がけている	初動を見誤らない、迅速な対応ができたかを精査できる仕組みを確実なものにしていきたい

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			HPを媒体を用いて情報発信を行っている	更新頻度が少なくアクセスする方は限定的であるため、多様な媒体を用いて連絡体制を築きたい
	35	個人情報に十分注意している	○			個人情報取り扱いにおいては、十分な配慮をしている	ヒューマンエラーが許されないため、十分なモラルを持って取り扱いを継続していきたい
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			スマホ・ボード・手話等で特性に応じた意思疎通を図っている	社会性と照らし合わせたツールの有効性を常に検証していきたい
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			数は少ないもののイベント企画を行っている	地域交流等は様々な連携が必須になるため今後は強化を図りたい
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			実態に沿ったマニュアルを整備している。	あるだけでなく、必要時に的確な行動がとれるよう改善を重ねていきたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			緊急事態発生は予測できないため、訓練は臨場感を持って取り組んでいる	先の津波警報では、実際は慌ててしまい想定した動きを十分にできなかった それを踏まえた確かな行動は訓練の回数に直結すると認識できた
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			県や町でも研修機会を設けており、積極的に参加している	倫理規定と併せて十分な配慮を精査していきたい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			個人の判断ではなく、組織として統一できるように努めている	組織上の仕組み化により児童・保護者・支援者、双方が納得できる環境を更に整えていきたい
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			必要情報をスタッフが常に共有できる場所に掲示している	アレルギー程度の個人差があるため、必要に応じた保護者連携を密に継続していきたい
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事例を共有することで、細やかな支援に努めている	療育的安全性を確保しながら、自立ができる観点でヒヤリハット事例を活用していきたい	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。